# 東京ジャーミイ金曜日のホタバ

**２０１2年5月25**

イスラームには「恨み」はない

親愛なるムスリムの皆様。

こんにち、イスラーム社会においては意識的にあるいは無意識に、一部の人々によって憎悪、敵意、分裂の種がまかれ、人々を互いから引き離そうとしています。社会の精神的な力がそれによって失われることが狙われているのです。信者としてこの時代には、相互の愛情をより必要としています。困難な時代の苦しみを、ただ互いを愛しつつ、互いに力を与えつつ乗り越えることができるのです。アッラーはクルアーンで「信者たちは兄弟である。だからあなたがたは兄弟の間の融和を図り、アッラーを畏れなさい。必ずあなたがたは慈悲にあずかるのである。」（部屋章第１０節）と命じられ、信者が互いに兄弟であること、兄弟の間で不和があればそれを取り除くこと、融和を図ることを命じられておられます。預言者さまはハディースで「互いを愛し、互いに慈悲を示し、互いを慈しむという点で信者たちは一つの体の諸器官のようである。器官の一つが不調であれば、他の器官も眠らず、発熱し、協調する」

したがって、地上のどこで生きていても、どの言葉を話していても、どの民族に属していても、信者は互いに兄弟なのです。諸器官の間のこの均衡は兄弟たちの間でも保たれるべきです。この事実を預言者さまは次のように表現されています。「あなた方は信仰しない限り天国には入れない。互いを愛さない限り真の信者とはなれない。」完全な信仰を得るために、お互いを愛しましょう。なぜなら憎悪や怒りでイスラームの兄弟愛を実現することはできないからです。重い制度や熾烈な威嚇で心を引き付けることはできません。

親愛なるムスリムの皆様。今日、様々な理由から社会の人々の間で弱まってきている兄弟愛を新たに強める必要があります。利己主義、自己中心主義、妬みといった理由できれてしまったつながりを新たに強めるべきなのです。両親のことを忘れ、兄弟と不和になり、近親者とのつながりを断ち切り、隣人に立腹し、友人との関係が冷え切り、教えの兄弟とのつながりも断ち切ってしまった人々は、もはやこの神のメッセージに耳を傾けないのでしょうか。互いを抱きしめあうことはしないのでしょうか？

慈悲、いたわり、寛容を広めるべきです。イスラームの偉大な人々、メヴラーナ、ユーヌスたちのように、寛容をもって許し、胸に抱きとめる人であるべきなのです。今日のフトバを詩人アーキフの言葉で締めくくります。「民族が分裂しない限り敵はそこに入り込めない。心がまとまっている限り、それを大砲でも壊すことはできない」